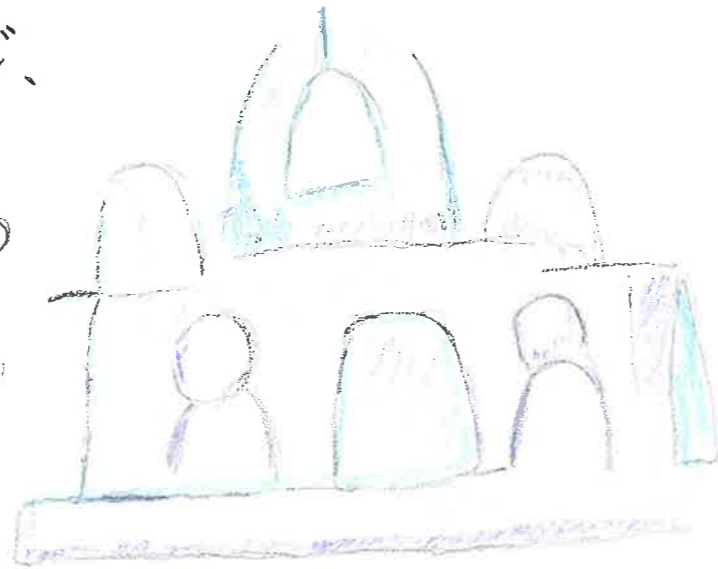


# 雪祭り



夏から11月上旬までは、毎週のようにイベントが入っていましたが、それ以降はめっきりとなくなりました。今年度に残こさされている大きなイベントは2月22日(土)開催の雪まつりのみとなりました。

高齢化が進み、準備も大変であると思いますが、30年以上続けられた祭り、協力隊の締めも兼ねているので、大成功を収めたいです。



# あとがき

残り期間3ヵ月をセカリましたが、テーマを見つけて行動できていますか？心身ともに元気ですか？

寒さや焦りの影響が、何でもないことで落ち込むこともありますが、ふるさと通信(特に、メッセージ入り)が届く度に離れていても頑張っているんだと勇気付けられます。

みんながどのように成長して、総括研修を向かえらるのか待ち遠しい限りです。

自分に負けず、楽しみましょう



ふるさと通信  
12月号

山形県 飯豊町

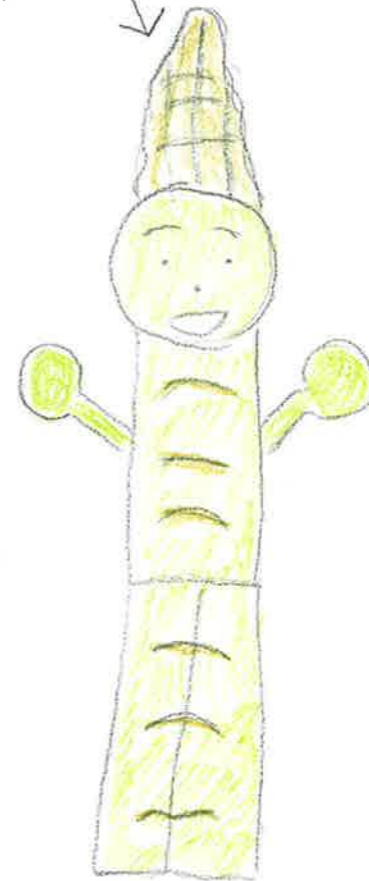
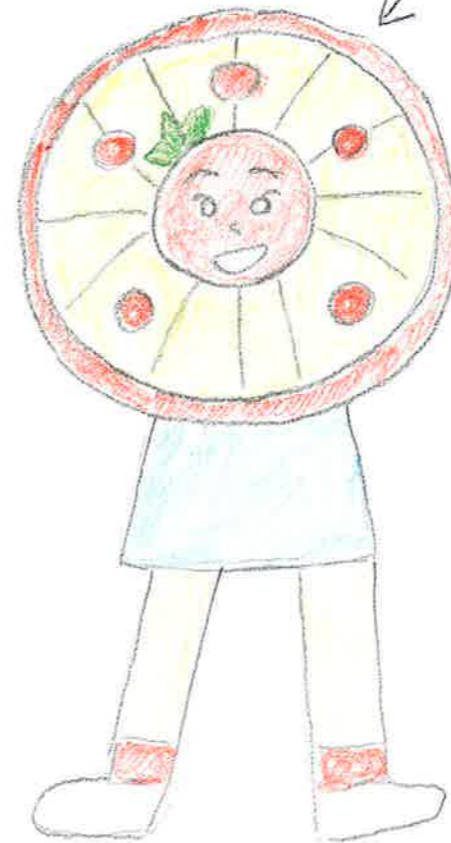
# 中津川地区

○ 飯豊町

人口：7922人

面積：329.60km<sup>2</sup> (林野面積約84%)

特産品：飯豊米、米沢牛  
どぶろく、アスパラガス  
山菜、ヤマメ、花笠など



2013年12月20日発行  
第20期 緑のふるさと協力隊  
阪井 達也

〒999-0427

山形県西置賜郡飯豊町大字上原

445-7 瑞穂寮201室

○ 中津川地区

人口：326人

世帯数：131

高齢化率：54.2%

町の若者と集まって、町でコスプレをしたらおもしろいのではないかと、アイデアが  
出ました。

特産品PRの意味も込めて、デザインしてみました。



# 菅笠づくり

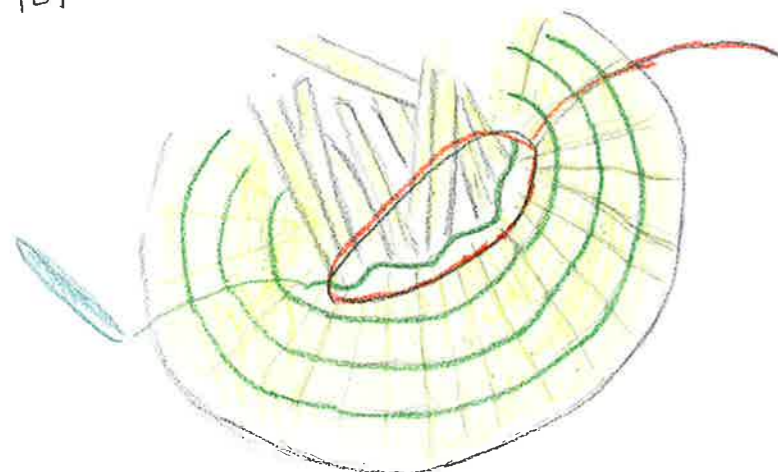


「山形花笠まつり」で使われる菅笠の8割を中津川地区のおじいちゃん・おばあちゃんが一つずつ手作業で生産しています。

しかし、後継者不足に悩まされています。

その理由は、ものすごく手間がかかるにも関わらず、高く売れないからです。

菅刈り(材料集め)を体験させてもらいました! その後は、3~4日天日干しをします。準備だけでも大変です。



菅笠を縫わせてもらいました。明らかにくねくねですが、およそ10年ぶりに針と糸を持ち、不器用で、利き手でない右手でした割にはうまくいきました。

これから冬の期間に名人から教えてもらい、自分の菅笠を作りたいです。できるのか不安ですが、何事も挑戦あるのみ!

# 中津川のうまい物<sup>もん</sup>

## きゅうり、なす



7、8月の主役でした。や、と消費したかと思うと、また頂いて何して食べようか悩まされました。

## 宇津沢かぼちゃ



中津川地区宇津沢集落でしか作られない伝統野菜。甘みが強くホクホク感があり、今まで一番おいしいカボチャかも!

## さといも



10月はさといもを使った山形名物「芋煮会」の連続でした。芋煮という言葉も聞いたことがありませんでした。

## 天然きのこ



香り、歯ごたえ、味すべてが違いました。こねを食べてしまうと、市販で売られているきのこを買うことができなくなる程です!

- 高齢者宅訪問をしていると、「何もありませんけど」と言われますが、心のこもった手料理を何品も出してもらうことがよくあります。その姿こそ、現代では失われつつある日本人のおもてなしではないかと思っています。
- 「家庭菜園で作った野菜どこで売るんですか?」と聞いてみると、「いろんな人に渡すんだ。そんでコミュニケーションが取れて、何よりも楽しいんだ」と返答されました。野菜を経済的価値としか取らえられなかつた自分が悲しくなりました。